

脊椎関節炎領域用語統一-用語集用語と和訳検討-に関する研究

研究分担者：中島 亜矢子(三重大学医学部附属病院 リウマチ・膠原病センター)
 研究分担者：山村 昌弘(岡山済生会総合病院 内科)
 研究分担者：中島 康晴(九州大学大学院 医学系研究科 整形外科学)
 研究分担者：大久保 ゆかり(東京医科大学 医学部 皮膚科学)
 研究分担者：辻 成佳(独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター 臨床研究部)
 研究分担者：大友 耕太郎(慶応義塾大学 医学部 リウマチ・膠原病学)
 研究分担者：岡本 奈美(大阪医科大学 医学系研究科 小児科学)
 研究協力者：野田 健太郎(桑名市医療センター 膠原病リウマチ内科)
 研究代表者：富田 哲也(大阪大学大学院 医学系研究科 運動器バイオマテリアル学)

研究要旨：強直性脊椎炎(AS)に代表される脊椎関節炎領域の用語和訳の統一、用語の定義の明確化を図ることを目的とした。『脊椎関節炎診療の手引き2020』を中心に、脊椎関節炎関連の主要文献、脊椎関節炎学会ホームページに掲載している資料を基に、英語用語とその和訳の作成を試みた。その過程で、単に和訳を作製するのみならず、背景にある歴史的経緯や解剖学的知識を鑑み、定義を明確化することが必要な用語もあることが判明した。上記資料から367語の脊椎関節炎診療に必要な用語を抽出し、和訳案を作成、また、20語あまりの定義を明確にする必要がある用語を抽出して検討した。現時点では、案の段階であり、今後も継続した審議・検討が必要である。

A. 研究目的

強直性脊椎炎 (ankylosing spondylitis, AS) をはじめとする脊椎関節炎 (spondyloarthritis, SpA) は、リウマトイド因子陰性の体軸性関節炎 (axial arthritis) を特徴とする疾患群である。HLA-B27 保有率の高い欧米では RA に次いで多いリウマチ性疾患であるが、日本では HLA-B27 保有率は低くその罹患人口は少ない。近年、その病態解明が進み、TNF 阻害薬や IL-17 阻害薬などの生物学的製剤により、疾患活動性が抑制され良好な予後も得られるようになり、罹患患者の早期診断、適切な治療介入の必要性がより増してきている。

昨今、脊椎関節炎の進歩した治療が様々な場面で取り上げられるようになった。その中で、用いられる和訳用語が研究者により一定ではないことが懸念されていた。また、その定義があいまいなまま用いられている用語があることも判明してきた。このため、今回は、脊椎関節炎に関する和訳用語の統一、用語の定義の明確化を図ることを目的とした。

本研究は、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作成と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究」班の用語委員会で実施した。

B. 研究方法

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作成と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究」班で作成された『脊椎関節炎診療の手引き2020』を中心に、分担者・協力者の計 8 人で脊椎関節炎診療に必要な用語を、各パート 2 名ずつで抽出、適切と思われる既存の和訳候補を記載した。さらに、主要文献 (Ann Rheum Dis 2015;74:1327-1339, Ann Rheum Dis 2017;76:978-991, Arthritis Care Res 2019;71:1285-99)、日本脊椎関節炎学会ホームページ内のスライド資料を基に、用語を追加抽出した。

抽出した用語のうち、その和訳用語がほぼ一定のコンセンサスが得られているか否か、また用語の定義が明らかか否かなどを判定。一定のコンセンサスが得られていない用語や、定義を明らかにする用語を抽出し、用語委員会の Web 会議にて検討した。さらに、それらの用語を、班会議にかけ、検討する予定である。

C. 研究結果

『脊椎関節炎診療の手引き 2020』から 873 語（重複あり）を抽出した。これらの中から和訳統一が必要な axial SpA、undifferentiated SpA、non-radiographic SpA/non-radiographic axial SpA、radiographic SpA、enthesitis/enthesopathy、dactylitis、inflammatory back pain、IBD associated SpA/SpA associated IBD、bone margin、back pain、degeneration of the sacroiliac joint、dorsolumbar junction、psoriatic arthritis sine psoriasis などの用語を抽出。2020 年 10 月 4 日に Web 会議で検討した。”Non-radiographic SpA”は「X 線基準を満たさない SpA」と意見の一致が得られた一方、”undifferentiated SpA”は時間軸を考慮に入れるか否かで、「未分類 SpA」「分類不能 SpA」もしくは「未分化 SpA」など複数の和訳が妥当である可能性が明らかとなった。また”back pain”などその理解に解剖学的知識などを改めて確認する必要がある用語なども明らかとなった。

その後、ほかの資料からの用語を追加し、367 語を脊椎関節炎診療に必要な用語和訳として抽出した。うち、他の診療科が中心の用語（例、皮膚科疾患用語）などを除く脊椎関節炎診療に必要な用語集に掲載する候補として 247 語が抽出された。これを、2021 年 12 月 20 日の班会議前に、班員の先生方に案として示すこととした。また同時に、①和訳用語統一に英文用語の定義に対する理解が必要な専門用語（inflammatory back pain、enthesitis、psoriatic disease、heel pain など）、②和訳用語統一化するうえで、非専門医に対して説明が必要な専門用語（axial/peripheral SpA、undifferentiated SpA、non-radiographic/radiographic SpA、active joint count、psoriatic disease、psoriatic arthritis sine psoriasis、undifferentiated SpA など）、③組織・評価法などの和訳用語作成の要否の検討（ASAS、BASDAI/BASFI/BASMI、CASPAR など）が検討項目となった。これらについても班会議で検討を行うため、案として班員の先生方に事前に示すこととした。

D. 考察

これまで AS に対して TNF 阻害薬が保険

適応であったのに加え、今回、IL-17A 阻害薬が X 線基準で診断されるほど進行する前の non-radiographic SpA に適応追加となったこと、『脊椎関節炎診療の手引き 2020』が作成されたことを機に、研究者間で統一されていなかった脊椎関節炎診療に必要な用語和訳の統一を試

みることを目的として本研究が行われた。Non-radiographic SpA は「X 線基準を満たさない SPA」で合意できた。一方で、undifferentiated SpA は一時点で「未分類 SpA」「分類不能 SpA」であるのか、ある疾患が成立する前の段階である「未分化 SpA」であるのかなど、元の用語の作成された経緯に立ち返らないと判断できないものもあることが明らかとなった。また、Back、heel、enthesitis など、非専門医にも説明可能なように、あらためて解剖学的知識などに戻り確認する必要がある用語もあることが明らかとなり、これらの事に対応したことに本研究の意義があると考えられる。

以前、脊椎関節炎学会で用語の検討がなされたのは 8 年前との事である。日常臨床においては治療の進歩により新たな用語が作成されたり、新たな解釈が加わったりすることもある。現時点では、全用語の和訳、定義は確定されていないが、審議検討を継続し、用語が正しく統一して使用される基となる資料を作製につなげたい。

E. 結論

脊椎関節炎診療に必要な用語の和訳作成および適切な定義の明文化を試みた。今後とも継続検討が必要である。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Noda K, Mizutani Y, Sugitani N, Suzuki Y, Okita M, Kusunoki M, Nakajima A. Risk factors for arthropathy in patients with ulcerative colitis after total colectomy. Mod Rheumatol. 2021 ;31(2):468-473

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1. 特許取得

なし

別添 4

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし